

## 自然との関係と原点回帰

浅野<sup>よし</sup>介<sup>ひろ</sup>敬(良裕)

先月は人類の歴史を振り返り、人間の特徴を確認することで、今後の社会、生活、仕事がどうなるかについて考えてきました。人類は他の動物と違い、言葉や文字を使い、火や道具を使い、人工的な構造物を造り、そして近代の工業化以降は自然をも大きく変えるような影響力を持つ存在になってきました。

たまたま今月は記録的な集中豪雨による被害や、災害とも言われる猛暑が発生しました。このような現象は日本だけでなく世界的に起きており、近年の異常気象の常態化からみても地球規模の大きな気候変動の時代に入ったと言えると思います。

この原因は直接的には偏西風等の気流の変化、海温の高温化や海流の変化等から説明できそうですが、さらにこれらの原因として地球の温暖化等が考えられます。そして温暖化の原因としては、人間による化石燃料や材料の使用量の増大、住宅や工場、交通インフラ等の開発のための国土の改造等が大きな影響を与えていると思われます。

また最近プラスチックごみによる海洋汚染が大きな問題になっており、先月のG7サミットでも「海洋プラスチック憲章」がまとめられました。毎年少なくとも800万トン以上のごみが海に投棄され、2016年のダボス会議では2050年には魚の重量を超えるとも予想されています。プラスチックごみは海洋を汚染し、食べた魚等の海洋生物が害されるだけでなく、その破片に有害物質が付着しそれを食べた魚を食べる人間に対する影響も懸念されています。

近代工業社会は主に化石燃料をエネルギー源に、自然を人間の好みに合わせて改造し、ひたすら快適性や便利さを追求してきました。自然に対する影響が小さいうちは問題が小さかったのですが、発展途上国が発展し先進国並みの生活をするようになれば、これまでのような開発では地球の容量を超え、生物が生存していけるバランスが大きく崩れていくことが危惧され、残念ながらそれが現実化しつつあります。

そのため国連などは「持続可能な開発目標」を定め人類社会の存続努力をしています。「持続可能性」は企業でも変化の時代に対応して、企業の持続可能性、持続可能なビジネスモデル等に用いられるようになってきました。

持続可能なためには、年月日が循環するように、経済活動、生活も循環していく必要があります。使い捨てではなくリサイクル、製品の耐用年数が尽きたら無害にして大地へ返し新たな材料として循環する等の循環型社会です。

今世界的に日本文化が評価されてきていますが、評価されている多くは江戸時代以前の文化ですが、江戸時代はまた循環型社会といえるものでした。サッカーのワールドカップでは日本のサポーターの試合後のごみ拾いが賞賛されましたが、生活や産業のごみレベルでもやり方次第ではできるのではないのでしょうか。

もちろん江戸時代の生活にそのまま戻ることはできないでしょうから、今の科学技術の更なる発展と共に、社会システムや個人レベルでの意識改革も必要でしょう。そのためのイノベーションを図る事は、経済的にも新たな付加価値を生み出すでしょうし、生活全般の豊かさ、自然との共生・交流、自然の中での幸せを味わえるのではないのでしょうか。